

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072300561		
法人名	有限会社 野いちご		
事業所名	グループホーム 野いちご式番館	ユニット名	
所在地	福岡県 八女市 新庄 567番地1		
自己評価作成日	平成28年7月8日	評価結果市町村受理日	平成28年9月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成28年8月4日	評価確定日	平成28年9月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々に恵まれ、地域に、そして利用者、家族に支えられたグループホームだと思います。これからは、地域への貢献を、利用者、家族とともに行っていくとともに、利用者が安心して暮らしていけるようなグループホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム野いちご式番館”は開設から10年を迎えた。職員の入れ替わりも経験してきたが、理念を共有し、入居者の自立支援に向けた話し合いができる職員が揃ってきている。ホーム長への信頼が厚く、専務のお人柄もあって、職員が相談しやすい環境が作られている。「家庭的な雰囲気の中で、入居者の方のご希望、身体・精神状態に合った生活を専門スタッフが支援します」という理念を掲げており、「専門スタッフ(プロ)」になるための指導を続けている。ホーム長が中心になり、入居者の有する能力を把握する力を養うと共に、自立支援に向けた介助方法も習得してきており、職員全体の資質は向上してきている。今後は更に、入居者と職員のチームワークを強化し、入居者自らが自分らしい生活を実感して頂ける支援を継続していく予定である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『今』を大切にという基本理念に基づいて、日常のケアへ活かせるよう、毎朝、『理念』を唱和しスタッフ同士共有していつている。	「自分らしく自由な」生活が送れるように、生活リハビリを取り入れ、少しでも自立した生活が維持できるように努めている。理念の唱和が始まり、職員の意識に浸透し、職員個々に達成感を感じる機会も増えており、「何故？」と言う視点で、ケアの根拠を考えるようになってきている。	入居者の意思決定を大切にされており、今後は更に、入居者の方々と一緒に理念を唱和し、入居者主体で日々の生活内容を検討する機会などを作っていく予定である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会行事に参加しており、町内の祭りに招待を受けたり、運動会を見学した際は町内のテントで見学させていただいたりしている。避難訓練にも参加していただいている。	小学校2年生の子ども達が町探検でホームに来て下さったり、保育園児も太鼓演奏等をして下さり、楽しいひと時となっている。町内会の旅行や道路愛護には職員が参加し、“八幡よかとこ会”では、野いちご新聞等を掲示し、ホームの取り組みを紹介している。	地域の方に“話し相手ボランティア”の募集を検討されている。オレンジリングの活動を通して、地域の方々に認知症と認知症ケアの啓発活動を行うと共に、職員の更なる意識改革に繋げていければと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の祭りに招待されたときは、ほとんどの入居者をお連れしている。徐々に地域の方々の対応が変わってきているように感じます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組み状況や実施予定を報告しており、会議中に、ご意見をいただくようにしている。	ホームの取り組みを理解して頂くと共に、災害対策等の検討が行われている。家族の参加を増やすために、敬老会と一緒に開催しており、家族と参加者の交流の機会になっている。会議風景を写真に撮り、議事録も詳細に残している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極的とは言えないが、市担当者とは日頃からなんでも相談できる関係にあると思います。	市の方から、ボランティアを募集するためのアドバイスや運営推進会議の会議資料へのアドバイスを頂いている。生活保護の区分変更の時はケアプランを持参して状況報告を行っており、不明点を相談した時も親身に対応して下さっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないということで、ケアに取り組んでいる。	”言葉遣い”も虐待に繋がる事の再確認が行われている。家族には、身体拘束を行わない事や日々の見守り等に努める事を伝え、予測されるリスクも説明している。業務優先にならないように、職員がゆとりを持って支援できる方法を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内だけではなく、施設外での研修などに参加していき、徹底に努めている。特に言葉使いには注意している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は施設内で研修をおこなっていたが、最近では行っていない。そのため施設外での研修に参加して学ぶ機会を設けている。	入居時に制度の説明をしており、成年後見制度を利用している方もおられる。ホーム長や専務が制度の必要性の検討を行い、必要に応じて福祉事務所を紹介している。県のGH部会で権利擁護研修に職員が参加し、制度の勉強を続けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度説明をし、ご理解いただいていると思っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の意見などできるだけ取り入れ、ケアにつなげていくようにはしているが、外部へ表す機会といえば、今のところ必要に応じて、運営推進会議で行うようにしている。	職員全員、“笑顔で挨拶”を意識している。家族に近況報告を行い、要望等を尋ねている。毎月の新聞を作成しており、写真も掲載し、プランの実践状況も含めた近況報告を家族に渡している。職員の人員体制を含め、適宜報告を続けていく予定である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、ユニット会議、そして毎朝のユニットミーティングを行い、スタッフの意見が出しやすいように心がけている。	専務、ホーム長のお人柄もあり、意見を伝えやすい環境になっている。日々の業務の中で、職員の意見や要望を聞くようにしており、毎年の事業計画の中で職員個々の目標を掲げている。両ユニット合同の全体会議で勉強会を行い、申し送り後のミーティングで意見交換している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できるだけ努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	十分に配慮し、休みの希望は、制限せずにし、優先的にしている。	採用時は真に持っている人間味(人への優しさ)を大切にしている。採用後に職員個々の能力やタイプを見定め、“出会った以上は、この縁を繋いでいく”と言う思いで、職員個々のお力を發揮してもらっている。介護が初めての方もおられ、マニュアルを作り、職員に渡している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	会議など、様々な場面で意識するようになっている。特に言葉遣い。まずは言葉遣いから取り組んでいる。	専務、ホーム長は、入居者の人権を尊重し、入居者の立場に立って、今を大切に・・という事を自ら実践している。“プロの介護職として”と言う意識を持ち、根拠あるケアができるように勉強会も行っている。理念の唱和も継続し、迷った時は理念を振り返るようにしている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価などで、現状の把握を行い、それに伴い個々へのアドバイス、研修の促しなどを行おうとしたが、いまだできていない。できるだけ積極的なコミュニケーションを図るようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八女地区介護保険事業連絡協議会のグループホーム部会や八女市地域密着型サービス連携会議、福岡県高齢者グループホーム協議会などを通じ、交流を図り、ともにサービス向上のために学びあっている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に精神、身体状況に関する情報を収集し、実際にご本人とも面接を行うようにしている。できるようであれば、事前にホームを見学してもらうようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずは、入居ありきではなく、ご家族の不安や困っていることを聞くことから始めるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、入居ありきではなく、ご家族の不安や困っていることを聞くことから始め、必要に応じたサービス利用を提案している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とゆっくり時間をかけて話すことを心がけており、生活の上で困っていることなどは、早めに対応するようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の近況報告や面会時などにご家族へ報告し、ご家族からいろいろな話を聞き、ケアに反映するとともに、できることは協力を促している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム内だけの生活ではなく、自宅へ帰って過ごされたり、ご家族と食事をしたりなど、これまでの生活により近い支援ができるような配慮はしている。	入居者の友達がホームに来て下さっている。地元の“よど祭り”や“八幡土曜余市”でも、知り合いの方と会話をされている。馴染みのお肉屋で大好きなコロッケを買われる方もおられ、家族の方とお墓参りに行かれたり、お手紙も届いている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様々な行事や場面にて、利用者が活躍できるよう促し、孤立されないよう、そばにはスタッフがいるよう心掛けている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、必要に応じ相談や支援できることは行うようにしている。そのためにも日頃からの関係づくりには気を付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人にあった対応を心がけている。できるだけ本人の意思に基づき検討をしている。	日々の会話と共に、入居者同士の会話から“思い”を把握し、職員間で共有している。できること、できそうなこと、要望等も確認し、言葉にならない思いも把握するように努めている。「自宅に帰りたい」と言う願いがあり、家族の協力で叶える事ができている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にできる限り情報を収集し、入居後も本人、ご家族から話を聞きながらケアに繋げるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の生活状況を記録に残し、スタッフ把握し、それぞれの一日の過ごし方を支援している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	何か問題があるときは、その都度スタッフ間で検討し、ご家族などの要望なども聞き、それを介護計画に反映できるようにしている。	自立支援を大切にされており、ご本人のできる事を引き出している。下ごしらえや食器洗い等の役割も担って頂き、主治医や看護師からのアドバイスも頂き、リハビリや体操も盛り込まれている。体調変化に応じて、適宜見直しを行っている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何か気づいたことがあったときは、毎朝のミーティング時に話し合ったり、介護記録などに※を付けたり、赤字で記入したりしてわかりやすくし、情報を共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけ柔軟な対応に心がけている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	穏やかな地域環境のため、散歩などで四季を感じたりすることができている。それに加え地域の方々から様々なご協力、ご支援いただいている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には今までのかかりつけ医を継続していただいている。かかりつけ医の変更が必要な時は、家族と相談しながら対応している。	2週に1回の往診や、歯科医からの口腔ケアを受けている方もおられる。職員や家族が通院介助を行い、受診結果の共有もできている。職員の観察力も高くなり、体調の変化はホーム長や専務、ホームの看護師に報告し、早期発見・早期治療に繋げている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になるようなときは、かかりつけ医の看護師へ受診時や電話などで相談したり、週1回の看護師訪問時に相談したりして、ケアにつなげている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	生活環境の変化により、悪化するケースがあるため、利用者、家族、医師や医療連携関係者とも相談し、早期の退院とスムーズな受け入れができるように促している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の説明を行っており、その後、その状況が見込まれるようなときは、ご家族の意向、本人にとってどうあったらよいか、ホームでできる支援、かかりつけ医、スタッフと連携をとり、随時意思の確認を行いながら取り組むようにしている。	入居時に意向を確認し、「最期はここで」と希望される方も多く、今後も職員間の情報共有をしていく予定である。24時間体制で医師の往診(点滴や酸素療法等)が受けられ、看護師にも相談できる。終末期にはご本人と家族の思いを受け止め、どこまで支援できるのかを話し合っており、誠心誠意の終末期ケアを続けている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、急変時などに対応できるように、日頃よりマニュアルに目を通すように伝えている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署立ち合いの元、避難誘導訓練を行い、毎回地域に呼びかけ参加を促している。	運営推進会議で災害対策を話し合い、通報装置に近所の方を2名登録する事ができた。訓練にも地域の方が参加して下さり、入居者にも消火体験をして頂いている。災害に備え、水や保存食、発電機などを準備しており、熊本地震後、地震対策の検討も行われた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者へ対する、感謝の気持ちを伝えるというスローガンのもと、毎日唱和し、実践するようにしている。	専務やホーム長は、言葉の中に感謝の気持ちを込める事を伝えると共に、毎月10日、20日、30日は『おもてなしの日』とし、職員は更なる「言葉遣い」の意識を続けている。個人情報の管理も徹底し、28年7月に弁護士からの研修も行われた。	時に語尾が強くなる時は、ホーム長が注意している。今後も自らの言動を振り返る機会を作り、「自分だったら？」という視点で“プロのスタッフ”を目指していく予定である。個人面談も行い、個別の目標設定を行う予定である。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に寄り添うようにしている。そして、様々な訴えに耳を傾け、一方通行とならないよう、自己決定できるような支援を目指している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先とならないように、柔軟な対応ができるよう、入居者優先で物事を考えられるよう、スタッフへ伝えている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来る方は、お任せし、手直しが必要な時はさりげなく治すようにはしている。介助が必要な方へは、その人らしさを考えるようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や下ごしらえ、配膳、下膳、食器洗いなど食事の一連の流れをスタッフとともに行い、スタッフも同じものを食べ、共有するようにしている。	毎朝、入居者に食べたい物を確認している。入居者と一緒に買い物に行き、カートを押して下さっている。じゃがいも等の皮むきを包丁でして下さり、お米とぎもして下さる。季節に応じて、干し柿、らっきょう、梅干し、盆団子作り等も一緒に楽しまれている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は日々把握している。摂取量の低下がみられるようなときは、工夫し少しでも摂取していただけるようにしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。希望者には、歯科医による週一回の口腔ケアをもらっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ入居者個々に応じた排せつ介助を行っている。定時の声掛けや、それぞれの排せつパターンに合わせてトイレでの排せつを心がけている。	排泄が自立している方も半分以上おられる。布パットで過ごして頂けるよう、パットの必要性を含めて職員間で話し合いを続けている。ご利用者個々の排泄感覚を把握し、記録にも残し、おむつからハビリパットに変更できた方もおられる。羞恥心に配慮し、同性介助も行われている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関しては、スタッフ間で特に気にかけている。できるだけ自然な排便ができるように常に話し合っている。(水分量、運動、牛乳、黄な粉牛乳、コーヒー牛乳など)それでも排便がないようなときに緩下剤などを服用するようにしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日午後より入浴を行っているため、その範囲内で入居者個々の希望に沿うようにしている。その時間以外の希望があれば、その時の状況を見ながら対応している。	お風呂好きな方が多く、体調に留意しながら、ご利用者の希望(湯温や入浴時間、愛用のシャンプー使用など)を大切にされている。入浴時は会話を楽しみ、入浴剤や柚子湯等も楽しまれている。湯船が少し深いので、福祉用具を利用して安全な入浴を心がけている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者それぞれの習慣やライフサイクルを考慮したうえで、安眠できるよう配慮している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医より指示された副作用については、スタッフに申し送っている。特に緩下剤の調整は、スタッフ間、主治医で検討している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々に応じて、その都度できるだけ支援するようにしている。新しい発見があったときは、スタッフ間で共有するようにしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じられるような外出行事を行ったり、買い物と一緒にいたりしている。家族より外出や外泊の依頼があったときは、スムーズな外出ができるように支援している。	ホームの前で日光浴を楽しんでいる。田畑に囲まれたホームの周辺を散歩したり、花見(桜・大藤・つつじ・梅、秋桜など)や柳川の川下りも楽しまれ、買物にも出かけている。家族と野球観戦に行かれたり、法事やお墓参りに行かれている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人から要望があったときは、立替金から本人に渡し、使っていただけのようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より要望があったときは、支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に生活音には注意している。入居者が不安になったり、混乱を招くような音、動きはしないように心がけている。	リビングの天井は高く、大きな窓から田畑を眺める事ができる。リビングと台所が隣接し、入居者も一緒に洗い物等をされている。リビングのソファでは、入居者同士が団欒されたり、入居者も一緒に掃除を行い、感染症予防に力を入れている。リビングと廊下に温度差があり、温湿度調整の検討も続けている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれに配慮し、他入居者との交流の場を作ったり、一人になりたいようなときは、そのような時間も大切にしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ持参していただけるように、入居時には伝えている。	木の温もりを感じる事ができる和室と洋室が準備されている。タンスや鏡台等を持ち込まれ、洋服がお好きな方は、沢山の洋服を持参している。敬老会の時にプレゼントした低反発の枕を愛用している方や、野球観戦に行かれた方は、チケットやメガホン、選手のサイン等を置かれている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	入居者それぞれに『できること』『わかること』をスタッフが把握し、できるだけ自立した生活を送れるように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				